

## 広島で交通信号を取除いたら

### どうなるだろうか

総合科学部長 天野 實

御卒業おめでとう。諸君は広島大学総合科学部へ入学して四年間大学生として人生のうちで最も自由度の高い生活をしてきたわけである。諸君はどんなことを身につけただろうか。今から社会人として長い人生を送る時に大切なものは何だろうか。

一昨年にインドネシアで二週間生活する機会を得た。ジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタの三大都市で大変驚いたことがある。何と自動車とそれにバイクの多いこと、更に私を驚かせたのは道路に交通信号の少ないことだ。大きな幹線道路の四辻には信号があるが、非常に少ない。にもかかわらず交通事故に一度も遭わなかった。老若男女がひっきりなしに車の走っている道路を横切つてゐるにも拘らずだ。驚いた。本当に驚いた。何事故が起きないのだろうか。

答えはいたって簡単なことだった。しかしこれに気付くにはしばらく道路を眺める必要があった。道路は車のためのものとの考えを改めるためにしばらくの時間が必要だった。

人が横断すると車はスピードを落として居るのだ。そうだが何処にも生活している人間が居るのだ。歩行者優先社会なのだ。ということとは他人をいたわる気持ちが大切なのだ。最近のように世の中がめまぐるしく変動する時代では特に経済優先でなくて、心にゆとりのある他人の気持を大切にすることを社会人としての生活を送ってもらいたいと思う。

## 学位記の授与

文学部長 潮見 浩

まずは文学部卒業生・修了生の皆様に、お祝いを申しあげます。本年から学部生も卒業式ではなく、学位授与式ということになった。これは昨年の学位規則の一部改正にともなう措置である。じつは本年度前期に単位を修得した学部生・大学院博士課程前期の人にも、各学部で諸君と同じ形式の学位記を渡したが、全学で催すものは、今回が最初である。

大学の改革がこれから急速に進行するものと予測されるが、この学位記の授与も、そのさきがけといえる。本当は改正された課程履修の結果として、学位記の授与されるのが、あるべき姿であろう。どうも順序が逆になっているようであるが、これから大学が大幅に変わっていくことを理解していただくより外はない。これから大学の制度が変わるとしても、広島大学文学部が、設けられている先生方が学生に期待し、教えた内容が誤りであったということではない。時代に即した方法が変わるとしても、諸君が卒業論文や修士論文にとりあげた研究テーマは、これからどんな職につくとしても、忘れてほしくない。これからの世の中に期待されているゆとりのある生活のなかに、ぜひとも活かしていただきたい。おわりに「学不思則罔(学びて思は不れば則ち罔し)」の言葉をおくりたい。何となく古くさい言葉だと、思わないでいただきたい。私の専攻している考古学の人間の歩みからすれば、ほんの今朝の言葉にすぎない。